

華のある生活を ～園芸で生活を活性化させる取り組み～

社会福祉法人白梅福祉会 ケアハウス花
高杉弘美・阿形明子

1

はじめに

ケアハウスでは『入居者の外出は自由』
しかし・・・
一日の大半を居室で過ごす入居者が多い



- 活動量が少ない → **体力・筋力低下**
- 人との関りが少ない → **認知機能の低下**

2

研究の目的

- 居室から出て活動量を増やしたい
- 人と関わる機会を増やしたい
- 生活の中に楽しみを持ちたい



園芸活動

3

研究方法

- 【期間】 令和6年4月～令和6年8月
【対象】 特定枠の入居者 21名
参加希望を確認し、参加者は16名
【方法】
- ①対象入居者による園芸活動の実施。
ミニトマトとミニひまわりを個々に育てる。
取り組みの様子や生活の変化を記録。
 - ②園芸活動後に参加した入居者に聞き取り調査を実施。

4

種まき～発芽 (施設内)



5

寄せ植え



6

外の花壇・鉢植えに移植



7



8

開花



9

収穫



10

結果 様子観察の記録から

- ▶ 予想していたよりも参加される方が多く、参加者の多くが開花・収穫まで活動を継続出来ていた。
- ▶ 水遣りの為に毎日外に出て行かれる姿が多く見られた。
- ▶ 入居者同士や職員と入居者の間で会話の機会が増えた。

11

結果 様子観察の記録から

- ▶ 自分の育てている植物だけではなく、他の方が育てているものにも関心を持ち、お互いに助けあう姿が見られた。
- ▶ 植物の世話の仕方や状態について、色々な意見が聞かれた。
(水遣り、鉢を置く場所、虫の駆除、肥料、収穫の時期など)
- ▶ 率先して草取りをする姿も見られた。

12

A様の様子

- ▶ 70代男性
- ▶ 独歩で移動
- ▶ 食事・入浴・週2回の機能訓練の参加時以外はほとんど居室から出ることがない。



ほとんど毎日、毎食後水やりの為に外に出て行かれるようになった。

13

B様の様子

- ▶ 100歳女性
- ▶ シルバーカーで移動
- ▶ 買い物等で外出する事は好きであるが、施設の外に出て散歩する事はなかった。

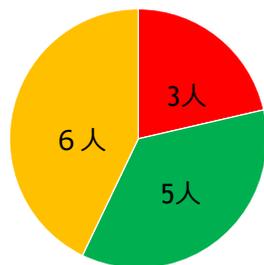


ほとんど毎日、1日に1～2回水遣りの為に外に出て行かれるようになった。

14

結果 聞き取り調査から

施設外に出る頻度 (実施前)



■ ほぼ毎日出る ■ 時々出る ■ 全く出ない

実施後

全員がほぼ毎日外に出るようになった

来年もまたやりたい

14人中11人

どちらでもよい

14人中3人

15

結果 聞き取り調査から

- ▶ 自分の手で育てるとやりがいがある。
- ▶ 皆で同じことをやるのが楽しい。
- ▶ 朝弱いけど、水遣りをやらなきゃと思うとシャキッと出来た。
- ▶ 女性入居者には話しかけづらかったが、今では女性入居者から声を掛けてもらえるようになった。
- ▶ 自分の育てているものが可愛くて水遣りは苦にならなかった。
- ▶ 部屋にいてもやるのがないから、やる事が出来たのはよかった。
- ▶ 体調が良くない時は代わりに水やりをしてくれる人がいて嬉しかった。
- ▶ 今まで外の花壇への行き方も知らなかった。
- ▶ 良い運動になった。

16

考察

日常生活の中で

- ・何もすることがないので退屈だ
- ・何かした方がいいと思うが出来ることがない



潜在的なニーズ

園芸活動の提案



高い参加率

17

考察

●高齢者の能力に合わせる工夫

- ①しゃがまない
- ②軽い道具
- ③簡単な作業

継続して活動

●愛着を高める工夫

- ①近く(室内) ➡ 遠く(屋外)
- ②自分自身で行う
- ③自己所有



18

まとめ

学んだこと

職員にやらしてもらえばかりではなく、入居者様自身が主体的に何かに取り組む機会をもつことは大切である。



学びをどう生かすか

はじめから出来ないことを前提に支援するのではなく、どうすれば入居者様が自身で行えるのかと考えながら支援をする。

19

ご清聴ありがとうございました



20